

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 27

2009年3月16日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。  
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、近藤満研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「産学共同研究成果発表会～地域の課題を解決する～」のご案内
2. 「サイエンスカフェin静岡」のご案内
3. 地域再生人材創出シンポジウム  
「次世代ものづくり人材養成を考える」のご案内
4. 静岡大学市民開放授業（2010年度前期）受講生募集説明会のご案内
5. 静岡大学開学60周年記念公開シンポジウムIIのご案内
6. 静岡県立大学「知的財産管理入門」講座社会人聴講生募集お知らせ

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

---

1. 「産学共同研究成果発表会～地域の課題を解決する～」のご案内

日時 2010年3月18日（木）13:20～18:00  
会場 B-nest静岡市産学交流センター6階プレゼンテーションルーム  
内容 ○緑茶成分の動脈硬化症予防効果に関する研究  
○空港開港に伴う旅館・ホテルの国際化対応と  
静岡市の国際ブランド力形成に関する産学共同研究  
○静岡茶を利用した静岡型ツーリズムの研究  
○高速回転機用金属磨耗センサーの開発  
○清水駅前銀座商店街の改革活性化プロジェクト  
○静岡特産「わさび」を利用した健康発酵食品の開発  
○静岡いも焼酎の生産と副産物バイオ燃料化  
定員 100名  
参加費 無料  
申込締切 3月12日（金）  
詳細/申込 <http://www.hanjyou.jp/itaku/default.html>  
問合せ先 B-nest静岡市産学交流センター  
TEL 054-275-1655 e-mail [info@hanjyou.jp](mailto:info@hanjyou.jp)

---

2. 「サイエンスカフェin静岡」のご案内

日時 第38話 3月25日（木）18:00～19:30  
「原子核の内部を探る～ミクロな世界を支配する物理学～」  
会場 B-nest静岡市産学交流センター6階プレゼンテーションルーム  
主催 静岡大学理学部  
参加費 無料（申込不要）  
詳細 <http://www.shizuoka.ac.jp/~rigaku/sciencecafe/index.html>  
問合せ先 静岡大学理学部 e-mail [sci-cafe@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:sci-cafe@ipc.shizuoka.ac.jp)

---

3. 地域再生人材創出シンポジウム  
「次世代ものづくり人材養成を考える」のご案内

日時 2010年3月26日(金) 9:50~18:30  
会場 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館 会議室  
主催 静岡大学工学部、浜松市

プログラム

1. ものづくり日本の復活~これからの技術者像~  
アルプス電気(株)技術顧問 谷本 勲氏
2. グローバル競争を勝ち抜くための次世代ものづくり人材像  
(株)メルコ 顧問 金城 盛順氏
3. グローバル時代における自動車の次世代プレス成形技術者の養成  
(仮題)  
トヨタ自動車(株)プレス生技部長 中村 真一郎氏
4. 九州工業大学における先端金型デジタルエンジニア育成(仮題)  
九州工業大学情報工学部 教授 鈴木 裕氏
5. 次世代ものづくり人材「はままつデジタル・マイスター」育成  
静岡大学工学部 教授 中村 保
6. はままつデジタル・マイスターの実施事例
7. パネルディスカッション「次世代ものづくり人材養成を考える」
8. 次世代ものづくり人材育成センター見学 16:00~17:00
9. 交流会 17:10~18:30

参加費 無料

詳細/申込 [http://www.eng.shizuoka.ac.jp/digital\\_meister/H22Program.pdf](http://www.eng.shizuoka.ac.jp/digital_meister/H22Program.pdf)

問合せ先 静岡大学工学部企画係 TEL 053-478-1757  
e-mail thmakiz@ipc.shizuoka.ac.jp

---

4. 静岡大学市民開放授業(2010年度前期)受講生募集説明会のご案内

日時 [静岡] 2010年3月25日(木) 13:30~  
[浜松] 2010年3月26日(金) 13:30~  
会場 [静岡] 静岡市産学交流センター(B-nest)7階 大会議室  
[浜松] 静岡大学浜松キャンパス総合研究棟 22教室  
詳細 [http://www.shizuoka.ac.jp/chiiki/event/20100311\\_1.html](http://www.shizuoka.ac.jp/chiiki/event/20100311_1.html)  
問合せ先 静岡大学生涯学習教育研究センター TEL&FAX 054-238-4817  
E-Mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

---

5. 静岡大学開学60周年記念公開シンポジウムIIのご案内  
「今、戦争と平和について考える」

日時 2010年4月24日(土) 13:30~16:30  
会場 静岡市産学交流センター6階 プレゼンテーションルーム  
定員 100名  
参加費 無料  
詳細/申込 [http://www.shizuoka.ac.jp/chiiki/event/20100215\\_1.html](http://www.shizuoka.ac.jp/chiiki/event/20100215_1.html)  
問合せ先 静岡大学生涯学習教育研究センター TEL&FAX 054-238-4817  
E-Mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

---

6. 静岡県立大学「知的財産管理入門」講座社会人聴講生募集お知らせ

期間 2010年4月9日~5月28日 毎週金曜(全7回予定)4/23は除く  
時間 9:00~10:30  
会場 静岡県立大学(静岡市駿河区谷田52-1)

参加費 社会人聴講生は7,400円（※参加希望者多数の場合は抽選）  
申込期間 2010年3月15日～26日  
詳細 [http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news\\_topics/auditor22firsthalf/index.html](http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news_topics/auditor22firsthalf/index.html)  
問合先 静岡県立大学産学連携室 担当 内山 TEL 054-264-5124

---

《 静大ラボ紹介 -12- 》

機器分析センター 近藤満研究室  
[http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~scmkond/Kondo\\_Lab/](http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~scmkond/Kondo_Lab/)

---

最近、アメリカや日本を含めて世界中の地下水、農産物、あるいは水道水から、安全とされる濃度を越えた過塩素酸イオンが検出され社会問題となりました。

このイオンは、甲状腺の働きを阻害し、乳幼児が過量摂取すると発育障害を引き起こすと懸念されていますが、水に非常に溶けやすく、煮沸等でも分解しないため、水溶液からの分離は困難でした。

近藤研究室では、水溶液中から過塩素酸イオンを選択的に除去するカプセル型除去剤の開発に成功しました。これは、金属イオンと新たに合成した有機化合物を用いて、水中の過塩素酸イオンをカプセル状に包み込み除去するものです。

このカプセル型除去剤は、従来の陰イオン交換樹脂に比べ、除去時間の短縮、高選択性、過塩素酸イオン捕捉時のカラーセンサー活性等のメリットがあるばかりでなく、除去反応後のカプセル素材の再生も容易です。

現在研究室では、更にこの新しい除去剤を利用し、工場排水等からの過塩素酸イオンの除去技術の確立を目指して研究を行っています。1日も早い除去技術の確立が待たれます。

（記：知財コーディネータ 吉田典江）

---

《 みんなのコラム 》

---

浜松ホトニクスは、高柳健次郎博士の門下生であった堀内平八郎（初代社長）が、同窓の晝馬輝夫（前社長、現会長）らとともに1953年に設立しました。以来半世紀、当社は、高柳博士からその先見性とチャレンジ精神とともにテレビジョンの基本技術である光電変換技術を受け継ぎ発展をしてきました。このように、弊社と静岡大学電子工学研究所とは深い関係にあるわけです。

『真の価値は金(かね)ではない、新しい知識だ』— 晝馬の信念です。それを具現化するために中央研究所では、10年後、20年後を見据え、光に関する基礎研究および応用研究を進めております。昨年就任した新社長晝馬明の下で、今後も我々は“光のパイオニア”として未知未踏の領域を追求しつつ、培ってきた光技術をさまざまな分野へ最大限に活かし、人類、社会の発展に寄与していきたいと考えています。

我々の師を生み出した静岡大学から第2の高柳健次郎が輩出し、テレビジョンのような産業が花開くことを期待しております。

（記：静岡大学客員教授、  
浜松ホトニクス(株)取締役中央研究所所長代理 原勉）

---

《 編集後記 》

先日ある研修会で「産学連携は何のためにやっているのか？」との問いかけに対して「産学連携は金儲けのためではない。研究の高度化や研究の幅を広げて、教育の質を向上するためにやっている。」「ここ数年産学連携が大学の収入源であったことは事実。その一方で大学が大学と

して存続し続けるために、自らの価値を外に訴えることを産学連携として続けていくべきである。」等の回答があり、改めて産学連携の意味という原点を見つめ直す機会となりました。

先日の事業仕分けで“廃止”という評価を受けた地域科学技術振興・産学官連携事業ですが「国民の理解が得られていない。」ということも一因に挙げられました。

自立的な体制構築が求められる中で、改めて自身にその意味を問うと共に、分かり易くその活動と成果を社会に伝えていくことも心していきたいと思いました。

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) まで  
お願いします。(↑送付の際は○欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

### 発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター (IJRC)

編集：原典子

編集責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1414

URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

\* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* - \* -

by Copyright(c)2008-2009 Innovation and Joint Research Center,  
Shizuoka University. All rights reserved